

シンポジウム

「超高齢社会のなかで男性介護を考える」

■日時：**2016年3月5日**（土）13:00～17:00

■会場：大阪大学中之島センター 講義室 406（定員 72名）
大阪市北区中之島 4-3-53 TEL.06-6444-2100 <http://www.onc.osaka-u.ac.jp/>

■シンポジスト（各 60 分の報告・発表等の後、全体討論）

1) 宮下 明夫（男性介護当事者）

「地域の住民の方々、友人に助けられた自宅介護からの解放」

2) 西山 良孝（「ほっこり庵」代表）

「男性介護者の介護ストレスについて」

3) 津止 正敏（「男性介護ネット」事務局長）

「男性の介護実態と組織化活動の現況」

司会：浜渦 辰二（大阪大学教授） 進行：林 道也（〈ケア〉を考える会）



■シンポジウムの趣旨： 親や妻など家族の介護を担う男性が130万人を越え、全介護者の3分の1を占めていると言われる。育児を担う男性を表す「イクメン」という語とともに、介護を担う男性を表す「ケアメン」なる語も使われるようになってきている。なかには、仕事と介護の両立が難しくなり、介護離職に追い込まれるケースも少なくない。今でも日本の介護の3分の2は女性で担われているが、わざわざ「女性介護」と呼ぶことはないのに、「男性介護」という語が使われるには、それなりの背景がある。認知症、難病、寝たきりなどの家族の介護は、一昔前までは長男の嫁に押し付けられ、女性に委ねられることが多かった。しかし、かつて半数を占めていた「嫁」による介護は全体の1割に激減し、そのかわり、夫や息子が担うケースが増えている。2009年には、「男性介護者と支援者の全国ネットワーク（男性介護ネット）」が発足して、徐々に男性介護の問題が注目を集めて来ている。身体介助や排泄介助のほか、食事・洗濯・掃除などの家事も、男性の肩にのしかかってくる。ビジネスのように目標を設定して成果を追い求めることに慣れて来た男性が、自分の思い通りにならない人間を相手に介護をする。どんな問題を抱えることになっており、どんな支援ができるのか、皆さんと一緒に考えたいと思います。



■参加費：無料

■お問い合わせ・参加申し込み……参加予約が必要ではがき又はメールでお申し込みください

（氏名、TEL、FAX、メールアドレスを明記）

定員になり次第締め切ります。

満席となりお断りする場合にのみ、連絡いたします。

〒560-8532 豊中市待兼山町1番5号

大阪大学文学研究科 浜渦研究室気付

「ケアの臨床哲学」研究会 宛

E-mail : yoshinokumano@gmail.com

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/~cpshama/clph-care/clph-care.htm>



共催：・患者のウェル・リビングを考える会（神戸） http://www.geocities.jp/well_living_cafe/

・〈ケア〉を考える会（京都・岡山） <http://care-kyoto.jimdo.com/>

・科研プロジェクト「定常型社会におけるケアとそのシステム」